



# 看護大FD通信

2017年度 第1号

## 目次

巻頭言	1
学生授業評価から得た私の授業の創意工夫	2
平成29年度後期「学生授業評価」の実施	3
FD研修レポート（新任教員研修、アクティブラーニング研修会）	4



## 巻頭言

FD委員会 委員長 平澤 則子

皆さん、こんにちは。

新潟県立看護大学では、今年から年1回、「FD通信」を発行することになりました。

FDとは『ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development)』の略で、大学の授業改革のための組織的な取り組みのことをいいます。本学では、教員が行う授業をよりよくするためにどう工夫ができるかなどを検討する『FD委員会』を設置しています。学部の主なFD活動の取組は次の事項です。

### \*FD研修会

本学では、教員全員を対象としたFD研修会を年1～2回実施しています。FD研修会への教員の参加率は毎回7割を超え、本学の教育力向上につながっています。昨年度は、学生の主体的学習を促すための「アクティブラーニング；理論と実践」、今年度は「学生の主体的学習を促す教員の活動」をテーマに研修会を開催しました。

### \*授業評価制度

「学生による授業評価」を全科目で実施していま

す。前学期、後学期1回ずつ年2回のアンケートを実施し、その結果は集計後グラフ化し、自由記述とともに科目責任者に渡されます。科目責任者は、個人または領域で結果を参考に次年度の授業について考え、改善に役立てています。

### \*授業評価結果概要

「学生による授業評価」の全体集計結果、科目群評価結果は、学内ネットワークで閲覧できます。授業評価アンケートは、授業の方法や内容についての評価項目だけでなく、授業への取組について学生の自己評価欄を設け、教員、学生の双方から教育成果について点検できるようにしています。このアンケート結果は、教員と学生が双方で確認することが重要です。皆さん、必ず閲覧しましょう。

最初は先生方が自分たちの力量を上げるというところから始まりましたが、今は、学生を主役として教育そのものをよくしていこうという方向に転換しています。私たちはFD活動のあり方を見直しながら効果的に推進し、教育の一層の充実を図りたいと考えています。



## 学生授業評価から得た私の授業の創意工夫

自然科学 教授 野村憲一



私の講義に対する学生諸君の授業評価を読みると、何人かの学生が「野村先生の講義は例えが秀逸」と書いてくれていた。自分ではあまり意識していなかったが、思い返してみると、私は確かに講義で例えをよく使っている。なかでも、私が特に気に入っているのは、「ヒトはちくわである」という例えである。この意表をつく例えに

よって、「消化管は体からだの外である」ということがはっきりとイメージできる。消化管は体の外であるということを理解すれば、消化管の悪性腫瘍は「がん」であることがわかる。がんは定義上、上皮性であるからだ。「肉腫」と「がん」の違いがこの端的な例えでよく理解できる。

実は、このちくわの例えは、他の様々な病態の理解に使える。「消化管は体の外」という理解があれば、異物誤嚥の対応は慌てなくてよいこともわかる。そもそも、消化管は体の外なので何かを間違っからだて飲み込んでしまっても、しょせん、まだ

「体の外」なのである。だから、そのような患者が救急外来に来て心理的には慌てなくてよい。まず、このような理解が学生には必要である。そのうえで、緊急に対応が必要な異物、たとえば、ボタン電池の対応を勉強すればよい。

ほかにも、たとえば、下痢に対する対応もこの例えでよく理解できる。下痢があっても、臨床的には止痢剤を使わない場合がある。細菌性の下痢の場合がそうだ。ヒトの体は消化管内の毒素を下痢によって、すばやく排泄しようとしている。生体防御反応として下痢になっているのである。消化管は体の外であり、もはや、体の外にある毒素は速やかに排泄しなくてはならない。つまり、下痢を止めてはならないということになる。このことも「消化管は体の外である」ということがわかっていけば、十分に理解できるであろう。

ほかには、「血管内皮細胞は昔のお風呂場に貼ってあったタイルのようなものだ」という例えも我ながら気に入っている。この例えであれば、

内皮細胞のツルツルした感じが学生たちによく伝わる。仮にお風呂場のタイルがはがれたら、その下のコンクリートはむき出しになる。これは血管内皮損傷そのものである。そのざらざらしたコンクリートがvon Willebrand 因子であり、その因子を基に、血小板の付着、凝縮が起こり、血液凝固が始まるのだ。

ほかにも、生化学という、きわめてイメージしにくい学問分野で、私がよく使っている例えがある。アデノシン三リン酸(ATP)を「硬貨」に例えるのである。「ATPは300円、アセチルCoAが3600円」といったような使い方である。硬貨は日本国中、どこへいっても使える。つまり、ATPは基本的な単位であって、体のどこでも使える。このことが硬貨の例えでよく理解できる。有機物ごとのATPの産生能力も硬貨で換算できる。アセチルCoAは、その価格でいえば、ATP12個分、つまり、3600円というわけだ。

私が普段、講義で使っているこのような例えが学生諸君の勉強にかなり役立っているということは、「学問の理解には、頭の中でちゃんとイメージが描けることが必須である」ということを意味している。正確なイメージがきちんと自分の頭の中で描けるようであれば、その内容は理解できているといっている。「例えを使ったイメージ法による学習」は、たしかに学習効果があると実感している。

昨年度、学生諸君からこのような評価をしてもらったので、今年度は、さらに医学知識をイメージしやすくなるような講義をしようと考え、講義中にミニ実習と記憶体操を取り入れた(詳細は学術雑誌に投稿中)。このミニ実習と体操によって、さらに学生諸君の勉強が進むことを心から期待している。昨年度、学生諸君からこのような評価をしてもらったので、今年度は、さらに医学知識をイメージしやすくなるような講義をしようと考え、講義中にミニ実習と記憶体操を取り入れた(詳細は学術雑誌に投稿中)。このミニ実習と体操によって、さらに学生諸君の勉強が進むことを心から期待している。

学生の皆さんへ

### 活かされています！ 学生授業評価

皆さんが書いてくれた授業評価を、教員はどのように授業改善につなげているのかの「見える化」を目指したシリーズ第1弾は野村先生に執筆いただきました。今後も皆さんの授業評価から得た授業の 創意工夫をに紹介していきます。

次号はどの先生なのか、乞うご期待！



立ち上がって、記憶体操を行う一年生たち

## 平成29年度 後期科目「学生による授業評価」の実施について

FD委員会は、授業改善ならびに教育の質の向上に資することを目的に引き続き学生による授業評価を実施いたします。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

**科目担当の先生方へ** 授業最終日に授業評価アンケートの配布をお願いいたします。回収は事務局庶務係が担当しますので、配布日時と教室を事前に教えてください。

**学生の皆さんへ**



授業評価アンケートの集計結果は、担当教員にフィードバックするとともに、大学ホームページ(学内専用)に過去2年分を掲載しています。教員は学生の 皆さんからの意見を参考に、授業を日々見直し、改善しています。ぜひ建設的な意見を寄せていただき、学生・教員が一丸になりよりよい授業づくりをしていきましょう。



# FD研修レポート

## 新任教員研修に参加して

母性看護学・助産学 准教授 西田絵美

私の場合、入職後半年経ってからの研修でしたので、「今さら研修を受ける意味があるのだろうか」と思いながら参加したというのが実情で、研修内容のほとんどがすでに知っていることばかりでした。しかし、この研修へ参加することで得られたものは意外なところがありました。

それまでの私は、年度途中で一人だけの入職だったこともあって、なんとなく自分が孤立しているような「よるべなき」感覚をずっと抱えて

ていたのですが、不思議なことにその感覚が払拭されたのです。それは、研修への参加で「平成29年度新任教員」としての自他承認がなされ、私自身の中で本学における居場所が確保できたのだろうと考えます。承認された居場所があることは、私たちがいきいきと活動するために不可欠であり、本学への帰属意識にも密接に関連しています。オリンピックの精神ではありませんが、「参加することに意義がある」ことを改めて実感した大きな意味のある研修でした。

## アクティブラーニング教員向け研修会

昨年度実施しましたアクティブラーニング研修教員向け研修会の第2弾として、8月24日(火)、「学生の主体的学習を促す教員の活動」をテーマに研修会を開催しました。講師は本学研究科長舟島なをみ教授にお願いし、36名の教職員・事務局職員が参加しました。

講演では、ご専門の看護教員学の見地から取り組まれた多くの研究成果に基づき、学生の自己教育力を高める教育のあり方を具体的に解説いただきました。さらに、授業展開や実習指導についても豊富な実践例を挙げていただき、懸命にメモをとる人、うなずきながら耳を傾ける人など、8月の暑さに負けない熱気に包まれた、あっという間の1時間半でした。参加者アンケートでは、学生の主体的学習を育むための教員の役割や活動について、各参加者が明確な学びを獲得したととも

に、学生のロールモデルを目指して自己研鑽を積んでいく意欲にあふれたコメントが数多く寄せられました。

FD委員会では、今後も教員の教育活動の充実のために活動を進めていきます。こんな研修が受けたい! こんな企画はどう? といった意見・提案がありましたら、どうぞFD委員会にお伝えください。



## 編集後記

「授業改善事例を収集し、教員にフィードバックせよ。」これが、今年度初めてFD委員会に入った私の任務でした。教員だけでなく、授業評価してくれた学生さんにもフィードバックしたいと考えたのが、看護大FD通信誕生のきっかけです。次は、こんな記事が読みたい!といったリクエストも大歓迎。委員一同、お待ちしております。(FD委員会 高柳)

- ◆発行日 平成29年10月18日
- ◆編集・発行 新潟県立看護大学FD委員会